

第1回飯綱町子育て世代支援施設建設検討委員会（平成30年10月30日開催）

・出席委員

小林千登世 山口智美 長崎夏美 清水由佳 眞喜志亜矢子 増田祐美 松木春菜
栗田喜美江（さみずっ子保育園長） 押鐘裕子（保健師）

・欠席委員

太田光洋（長野県立大学健康発達学部こども学科長兼教授）

・出席事務局員

馬島教育長、桜井教育次長、若林子育て支援係長、横田保育士

開会 10:00

1. あいさつ

2. 自己紹介

3. 検討委員会の運営について

委員長・副委員長の互選について

4. 報告事項

(1) 建設計画の経緯について

(2) 新施設での子育て支援施策について

(3) 今後のスケジュールについて

5. その他

閉会 12:00 進行 教育次長

1. あいさつ

教育長：検討委員の委嘱と挨拶の言葉あり。

2. 自己紹介

事務局：自己紹介あり。

委員：自己紹介あり。

事務局：長野県立大学、太田教授の欠席報告・紹介あり。新子育て支援センターは、ワークセンターを合体させたい。子育て支援センター、ワークセンターの利用者から、検討委員会を立ち上げた。

3. 検討委員会の運営について

事務局：検討委員会の運営・要綱についての説明あり。

委員：質疑なし。

事務局：委員長、副委員長の選出についての説明あり。

事務局：事務局案として、委員長に栗田園長、副委員長に山口さんにご協力いただきたいが、いかがか。

委員：(拍手)

事務局：園長先生に入っていたいただいたのは、保育園との連携があるため。保健師、発育・発達に関する相談事があり、識見という形で入っている。

事務局：委員長、副委員長の承認。

委員：賛成の拍手

委員長：挨拶の言葉あり。

副委員長：挨拶の言葉あり。

4. 報告事項

(1) 建設計画の経緯について

委員長：報告事項、建設計画の経緯について、お願いいたします。

事務局：子育て支援系の概要説明。運営している3施設の施設面の課題・問題説明。経過報告。

事務局：先進地視察報告。

委員：現在の環境だと、相談事業を行いにくい。個別のスペースがあると、お母さん方が話しやすい。

事務局：子育て支援センターの事務室が社協ボランティアセンターと同部屋という物理的制約もある。

(2) 新施設での子育て支援施策について

委員長：新施設での子育て支援施策について説明を求める。

事務局：新施設での施策の素案提示。名称についても検討委員会で決めていきたい。飯綱町で子どもを育む親になる、この町だから子育てが楽しいと感じてほしい。支援の柱を素案として3つ。1つ目、子どもと親と一緒に成長していく支援。子どもと親の友達づくりを支援。地域で安心して子育てができる支援。

(3) 今後のスケジュールについて

委員長：今後のスケジュールについて事務局より。

事務局：国の有利な補助金、交付金を申請したい。検討委員会で施設の位置、デザイン、間取り、新たな事業等を決めていきたい。

委員：質疑なし。

事務局：今後、ワークショップや、現場や、視察に行くこともある。

教育長：事務局が説明したが、飯綱町でできる範囲で、お母さんたちにわくわく感を持ってもらいたい。

委員：建設位置は決定ですか。

事務局：決定ではなく、予定。ここで決めていただきたい。

委員：検討委員会で決めても良いのか。

事務局：最終的には理事者になるが、検討委員会の意見として理事者に提言する。

委員：中央保育園はどうか。広いし、園庭もあるし、適していると思ったが、お話を聞いたらすごく古いので耐震やトイレも問題と。

事務局：あの建物をそのまま使うのは無理。

委員：更地にしてからという予算はないか。

事務局：解体に予算を使うより、新しい施設に使いたい。

事務局：建設候補地にある大型遊具は移動して、可能ならまた使いたい。

委員：あの広場自体をもっと広げるということは、できないか。

事務局：駐車場一列分を可能であれば広げたいと考えている。

委員：西小を使う予定はあるか。

事務局：都会の子どもと交流場、長野パルセイロ、癒しの森で木に触れ合う等の施設。

教育長：西小学校の児童クラブが、旧保育園の古い建物から、西小学校のグラウンドに面した建物となる。児童クラブの子はその部屋を使いながら、グラウンドも使える。

事務局：グラウンドは長野パルセイロのジュニアを招聘して、芝生化しジュニアの大会を開催していく予定。建物は交流の場という位置づけで、跡地活用を今考えている。

委員：児童館が移ったら、旧西保育園は残りますか。

教育長：取り壊すしかないという建物なので、それまでは物置場に。

事務局：耐震が駄目です。

委員長：利用には耐震ということが問題になってきます。

事務局：視察先では、閉園した保育園（耐震十分な建物）の跡地を活用するとか、建物を利用している例もあった。例えば今、南部保育園を使ってしまうわけにいかない。跡利用するならどこがいいのかという視点でもご意見を聞かせてもらいたい。

教育長：夏に水遊びできるような水場もつくりたい。町民会館周辺はマレットゴルフ場になるが、使用していない時は散歩コースにしたり、お弁当を食べたりできる憩いの場にもしたい。支援センターに子ども用の図書を置けばいいと思うが、数が限られてきてしまう。子育て支援センターの近くに町民図書館があるというのは、お母さんのためにも子どものためにも、それは欠かせない条件かと考えている。工夫や、知恵を使うことによって、限られた中でも道は開けてくる。ぜひお母さんたちにお願ひしたい。そのためにもご意見を出していただいて、私どもはそれを参考にしながら、形にしていければと考えている。

委員長：今後もぜひご意見、感想を出してほしい。

事務局：また皆さんのご家族やお仲間のご意見もお寄せいただきたい。

副委員長：子育て世代の町民にアンケートをとることは可能か。

教育長：必要とあればアンケートを取ることも可能。

副委員長：いろんなお母さんたちの話を聞くと、すごくいろんな意見がある。

教育長：アンケートを取るにしても、ただ漫然と取っても意味がないので、どういう観点で、お母さん、子育て世代の人の意見を吸い上げるかというのもまた皆さんで、こんなことを聞いてみたい、こんなことを聞いたほうがいいのか、という準備は願ひしたい。

委員：託児の子どもが納得して預けられればいいと思う。保育士も融通が利いて動けたり、託児の子が多すぎるときに、支援センターの保育士もちょっと目を配れたりというのはいいかなと思う。

委員：ワークセンターでは、下のコミュニティスペースで食事を摂っているが、スペース的な問題で、誰かが行って誰かが帰ってきたら誰かが行ってという感じ。託児はお昼寝スペースがあったほうがいい。

委員：パパたちも来やすい場所になると良い。

委員：女性だけでなく、男性（パパ）も利用しやすい施設がよい。

事務局：皆さんのご意見を聞きながらつくり上げていきたいと思ひます。ありがとうございました。

5. その他

事務局：特にございません。

一同：ありがとうございました。